

# 「漢学の里 諸橋轍次記念館」を訪ねて

15年以上続く大島グループの勉強会「論語塾<sup>すばる</sup>六連星」は、この4月で185回を迎えました。毎月、鎌倉から安藤頌太郎先生をお招きし、論語を通じて、「ものごと」の本質やどう生きるべきかを学んでいます。

今回は少し趣向を変え、新潟県三条市出身で、漢学者・漢字学者として大きな足跡を残した諸橋轍次博士の記念館を訪ねるミニ研修旅行を実施しました。



旧)南蒲原郡下田村  
現)新潟県三条市庭月



こんなところに「記念館」なんてあるのだろうかと不安になるような、のどかな風景が続いていましたが、突然立派な建物が出現しました。



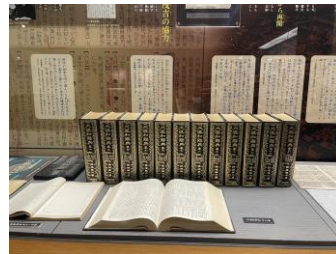
この研修旅行のきっかけは、諸橋氏の座右の銘として知られる  
「行不由徑(ゆくにこみちによらず)」

という言葉でした。

論語に由来するこの一節に触れたことから、今回の訪問へとつながりました。

大道をまっすぐに進む。小道は、近道に見え、変化の魅力ももつが、  
やがては行きづまるものである— (諸橋轍次記念館リーフレットより)

学問と教育の大道をひたむきに歩んだ諸橋轍次博士の生涯に触れ、その功績や人柄を、貴重な資料の数々から見る事ができました。



勉強会の中でも先生から何度となくお話は伺っていましたが、実際に年表や資料を見ながら、先生の解説をお聞きすると、理解が深まるとともに、諸橋轍次博士の学問への情熱に圧倒されます。

昭和57年、百歳で亡くなった諸橋轍次博士。その半生をかけて取り組んだ「大漢和辞典」全13巻は、5万の漢字と50万の語彙を収録し、総ページ数1万5千という、世界最大級の漢和辞典です。



全5万字の漢字のパネル。自分の名前の漢字を目を凝らして探しました！



記念館の敷地内には、生家や茶室(復元)もあり、博士が幼少時に憧れたという「西遊記」の像も春空に映え、とても印象的でした。

訪問の締めくくりとして、記念館の壁面に書かれた「行不由徑」をバックに記念撮影。 安藤先生、ありがとうございました！



勉強会「論語塾六連星」は、毎月第3金曜日※  
 (※都合により変更する場合があります)  
 夕方17時半より上越タイムス会議室にて  
 開講しております。(約2時間)

ご興味のある方はぜひお気軽にご参加ください。  
 お待ちしております！

【連絡先】グループパンフレットP63参照

### おまけ

帰りは思いっきり寄り道して(笑)  
 長岡の人気ラーメン店  
 「青島食堂」で  
 醤油ラーメンを  
 おいしくいただきました！ 🍜

